

特別の教育課程の編成方針

令和８年度 小倉台小学校 特別の教育課程の編成方針

Ⅰ 特別の教育課程の内容

(１) 教科、時数等

小学校第１、第２学年において「外国語活動」を行う。

- ・ 第１学年は生活科を３４時間削減し、「外国語活動」を行う。
- ・ 第２学年は生活科を３５時間削減し、「外国語活動」を行う。
- ・ 全学年の「外国語活動」及び「外国語科」の名称を「英語科」とする。

(２) 実施期間

令和８年４月１日～

Ⅱ 特別の教育課程を編成する必要性

(１) 印西市の取組から

印西市においては、小・中学校へ週１～５日、幼稚園へ月１回、外国人指導助手（ＡＬＴ）を配置し、主に授業を通して異文化や外国語に触れることを体験し、コミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育成している。また、全小学校に英語教育コーディネーターを配置し、外国語活動及び外国語科の充実を図っている。

また、イングリッシュアカデミーホップ・ステップ（小学校３～６年生対象）・ジャンプ（中学校２・３年生対象）を開催し、英語コミュニケーション能力の向上や異文化理解を深め、国際化に対応できる人材の育成を図っている。

このように、市全体で外国語教育の充実を図ってきたところである。

現行学習指導要領の下においても、全学年の外国語教育の量と質を確保し、中学校へのスムーズな接続やさらなる授業改善に努めていくため、１、２年生の「外国語活動」を実施する。

(２) 本校の取組から

本校では、学校教育目標の「豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」を図る中で、「外国語活動」「外国語科」においても、市の取組を踏まえ、6年間の系統性を踏まえた外国語教育に取り組むとともに、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や聞く・話す能力の育成に力を入れてきたところである。

特に、低・中学年では、児童が日常的に英語に慣れ親しむことができるよう、イラストや絵本等の学習教材の充実を図るとともに、外国語指導助手（ＡＬＴ）及び英語教育コーディネーターのネイティブな発音を聞くことができる環境を整えた。また、高学年では、ＩＣＴ教材も積極的に活用し、英語を使った児童同士のやりとりや外国語指導助手（ＡＬＴ）等とのやりとりを通して、自分の思いを伝えることや相手の思いを理解することの喜びを感じることができるよう、学校全体で授業改善に取り組んできた。

これらの取組を継続・発展させることにより、児童の聞く・話す能力をより高め、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するため、特別な教育課程による低学年からの英語教育を実施する。

３ 特別の教育課程を実施するにあたっての配慮事項

- ・生活科の削減分については、年間指導計画を見直し、生活科の目標を達成できるようにする。
- ・市教委作成の指導計画を活用し、１、２年生の児童の発達段階や３、４年生の「外国語活動」への接続、6年間の系統性を踏まえた活動となるようにする。
- ・全ての授業を担当等と外国語指導助手（ＡＬＴ）・英語教育コーディネーターとのチームティーチングで行い、ネイティブの発音に繰り返し触れることができるようにする。
- ・児童が英語に慣れ親しめるような環境づくりを学校全体で計画的に行う。
- ・特別の教育課程について、保護者や地域住民、学校関係者への周知を行い、理解を得る。